

### Pick Up News

夏休みも終わり後期が始まりました。ここからの半年は、前期以上に忙しく、速いスピードで時間が過ぎていくことでしょう。4年生は研修活動が本格的になりますし、3年生は研究室配属、さらには進路を意識した諸活動もさまざまあります。2年生は3年生への進級へのハードルがあります。1年生は大学生活の一年間のリズムを知り覚えるためにも大切な時間となります。それぞれが目標を持って、着実に歩んでもらいたいと思います。さて、9月から建築学科教員として新たな教員が加わりました。**大石洋之(ひろし)先生**です。環境工学分野の環境心理・生理を専門とされる先生です。環境系と計画系をつなぐ本学科ではこれまでにない新たな分野の開拓が期待されます。授業では主に「音・光環境及び同演習」(2年生)を担当します。皆さんの学びの幅も広がります。どうぞよろしくお願い致します。

前号に続き4名の声を掲載します。大学院生の生の声を通して大学院の魅力を感じて下さい。

1. 大学院を志した理由
2. 大学院進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

1. 両親からの後押しと、研究室の先生から「4年生の卒業論文では1つの研究としてまとめるには時間が足りず不十分」ということを聞いたので、せっかく後押ししてもらえらばと思ひ、もう少し研究しようと思いました。
2. 3年後期の就活開始時期から考えていましたが、ゼミで色々と大学院での話も聞き、3年の終わりの春休み頃に決めました。
3. 人数が少ない分、学部の時よりも先生たちとの距離が近いこと、学部時代では少し触れた程度のことを深く学ぶ講義もあるため楽しいです。
4. 学部の講義よりも理解を深めたい人やまだ進路に悩んでいる人、社会に出る前に人生経験を積みたい人は院進学をオススメします。教職を受けている人は、募集があれば非常勤講師として経験を積むこともできます。(渡辺研M1: 昆雄輔)

1. 研究室に配属され、本格的に活動をしていくうちに研究室の活動内容に興味を持ち、学部生で終わってしまうのがもったいなく感じたため。
2. 4年生のはじめ頃。
3. 学部の時とは違ったより専門的かつ主体性が必要な授業に感じる。そのため自らの意見を相手にわかりやすく伝える力を養えると思う。
4. 進学と就職で迷っているなら大学院に！  
(中村研M1: 吉岡徹)

1. 大学院を志した理由は、学部時代の経験では浅いと感じたからです。就職活動をしていて、自分の経験を書こうとしたときにアルバイトや、サークルのことしか書けず、工大らしい活動をあまりしていなかったことが一番の志した理由です。今では様々なプロジェクトに参加でき、充実しています。
2. 3年生の2月頃です。それまでは、就職と大学院を迷っていました。大学院で学びたいと感じていながらも、学費の面や大学院に入って勉強をしていけるのか心配でした。しかし、就活をしている間もずっと、もう少し大学にいて学びたいと感じ、進学を決めました。
3. 学部の頃より人数も少数となり授業では一人一人に求められるスキルが上がりました。しかし、学べることも多く楽しく学んでいます。また研究室では、石井先生が色々なところで連れて行ってくださるので、大学内だけでなく様々な県に行けて、多くのことを学ぶことができ大学院ならではの体験ができています。
4. 大学院へ行きたいと思っている方はぜひ挑戦した方がいいと思います。学部とはまた違った経験や学びができると思います。(石井研M1: 田中翔大)

1. 学部の講義で学んだことが、自分の知識として定着しているかということに疑問を持ったため、進学して自分の知識力や思考力を磨きたいと思ったことと、3年後期から所属した研究室の活動が自分の興味のある分野だったため、さらに活動に関わってみたいと考えたので、進学を希望しました。
2. 就職と進学では休み期間の時間の使い方が全然違うためその期間を大切にしたいので、3年後期の授業が終わる前には、進学を決めていました。
3. 大学院では、講義内容が学部の頃とは違い、調べてから発表するという人に伝えるための作業が入ることにより、調べた内容が自分の知識になっているように感じています。また、それにより発表のノウハウなども学べるため実践的な技術も身につけているように感じています。
4. やりたい職業ややりたいことを見つけてそれに向けて頑張ることは大切なことです。もし、それがほんやりしていても好きな分野は必ずあると思うのでそこに力を注いでみてください。その先に進学の選択支も出てくるかもしれません。(不破研M1: 瀬戸研太郎)

### 【新任教員紹介】大石洋之 講師

研究分野: 建築環境工学、環境心理・整理、環境行動  
良好な建築環境の設計・運営のために環境と人との相互の関連を理解する  
担当授業科目: 音・光環境及び同演習(2年)、都市環境(3年: 分担)など



### Pick Up Lab

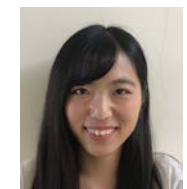
堀研究室では、地震に対して「強い」建物の研究をしています。安全性という意味の強さに加え、近年では地震後の機能維持や補修のしやすさも含めた強さとして、揺れない制振構造・免震構造が注目されています。4年生の前期までは主に基礎勉強やシミュレーション解析で検討してきましたが、夏になり、ぼちぼち実験による検討の準備を始めているところです。研究室の小型振動台による模型実験の他に、東北大学の大型振動台を使った地震応答実験を予定しており、また、免震建物の見学もしてきました。普段は入れない地下の免震層の見学は貴重な体験でした。



小型振動台での振動実験



免震建物の免震層の見学



3年 轟木 ひなこ  
泉高校 出身

### Pick Up Student

私は文武両道を目指して今まで過ごしてきました。入学以前から建築学科は忙しいイメージがありましたが、大好きなチアダンスが諦めきれず、チアリーダー部に所属し、現在も活動しています。勉学と部活とアルバイトの両立は、要領の悪い私にとっては辛さを感じることもありますが、社会に出る前に苦しいことを乗り越える訓練になっていると思います。そして何より、今しか出来ない沢山のことを全力でやれていることが幸せだなと感じます。3年生も後半に入り、あっという間に学生生活も残りの時間の方が少なくなりました。大学生だからこそ自由に使える貴重な時間を有意義に使っていききたいと思います。



2年 本山 大瑚くん  
日向高校 (宮崎) 出身

### Pick Up Student

私がこの東北工業大学に入学してから1年半経ちました。最初のころは出身地が仙台から遠かったため戸惑うことがありましたが学外活動を通して交友関係も広がり楽しく生活できています。普通科高校出身の私は建築について全く知識がありませんでした。ですが、大学の講義では詳しいところまで教えてくださったり、納得がいくまで説明してくださったりしました。また、学外活動では講演会、ディスカッション、旅行と自分たちから積極的に建築に触れ知識を得ることができました。このようなことを通して建築に対して何もわからなかった私ですが今でははっきりと学びたいことも決まりました。まだまだ学業に学外活動、アルバイトと大変ですがこれからも励んでいきます。